

令和2年度 事業報告書

学校法人 玉名白梅学園

| | |
|------------------------------|---------|
| 1 法人の概要 | |
| (1) 基本情報 | |
| ① 設置者、設置学校 | P 2 |
| ② 所在地、電話番号等 | // |
| (2) 建学の理念 | // |
| (3) 学校法人の沿革 | P 4 |
| (4) 設置する学科・コース等 | P 5 |
| (5) 学科・コース等の生徒数の状況 | P 7 |
| (6) 収容定員充足率 | // |
| (7) 役員の概要 | // |
| (8) 評議員の概要 | P 8 |
| (9) 教職員の概要 | // |
| 2 事業の概要 | |
| (1) 主な教育・研究の概要 | P 9 |
| ① 生徒募集 | |
| ② 教育活動、施設設備等 | P 10 |
| ③ 国際交流 | P 12 |
| ④ 地域(中学校、大学、地域等)との連携 | P 13 |
| 3 財務の概要 | |
| (1) 決算の概要 | P 15 |
| (2) 経年比較 | |
| ① 貸借対照表関係 | P 16 |
| ② 資金収支計算書関係 | P 16・17 |
| ③ 事業活動収支計算書関係 | P 17・18 |
| (3) その他 | P 19 |
| ① 有価証券の状況 | |
| ② 借入金の状況 | |
| ③ 学校債の状況 | |
| ④ 寄付金の状況 | |
| ⑤ 補助金の状況 | |
| ⑥ 収益事業の状況 | |
| ⑦ 関連当事者等との取引の状況 | |
| ⑧ 学校法人間財務取引の状況 | |
| 4 今後の事業を推進するに当たって | P 20 |
| 5 令和2年度給与改善・施設・設備関係報告 | P 21 |

1 法人の概要

(1) 基本情報

①設置者、設置学校及び所在地

〈設置者〉学校法人玉名白梅学園

〈設置学校〉玉名女子高等学校

② 〈所在地〉〒865-0016

熊本県玉名市岩崎1,061番地 (電話0968-72-5161 ファクシミリ0968-72-5163)

<http://www.tamanajoshi-h.ed.jp>

(2) 建学の精神

本校の嚆矢は、大正14年(1925年)、新穂登免先生(明治5年(1872年)～昭和46年(1971年)享年99歳 熊本県近代文化功労者 玉名市名誉市民第一号(同じく第一号として、マラソン走者で名を馳せた金栗四三氏がいる))が現在地(熊本県玉名市岩崎1,061番地)に玉名女子高等学校の前進である玉名実践女学院を設立されたことであった。大正時代は、大正デモクラシー、大正ロマンと言われて個人の解放や新しい時代への理想がもてはやされた一方、後半の大正12年には関東大震災、14年には男子普通選挙法や治安維持法が可決するという時代でもあった。このような時代を背景にして、新穂登免先生は、裁縫において一斉授業を取り入れるなど、夫義邦先生(本校第一代校長)とともに、「男性とならんで人としての、或は一個の社会人としての修養のために常人の及びがたい精根をつくされ」(『新穂登免校長と時代の面影』31頁 昭和24年10月22日発行)た。また、自ら英語を学ぶ中で、西洋文化の重要性も認識された。

爾来、本校は幾多の改革、変遷を経、現在でも女子教育を柱とした人間教育を中心とする一方、国際交流の重要性も標榜する地域の学校として、その名を在らしめている。その玉名女子高等学校は、3年後の2024年(令和6年)に創立100年を迎えることになる。新穂登免先生作と伝えられる三首の短歌がある。

霜雪をしのぎしのぎて咲きはほふ梅の花こそ花の花なれ

(霜や雪を堪え忍んで、春一番に咲き匂う梅の花は、花の中の花であるよ)

春風のさそふまにまになびけども乱れざりけり青柳の糸

(柳の柔軟な枝は、春風に吹かれるままに自由に揺れ動くけれども、乱れず、絡まることはないのであるよ)

これぞこれこの呉竹のみさをこそ我が教へ子のしるべなりけれ

(呉竹が志を貫くかのように、天をめざしてすくっと生えている。この姿こそ、教え子たちの人生の道しるべとなるものだよ)

本校は、この三首の短歌とともに、これに則った「質実剛健(身なりも心も飾らず、誠実であるとともに、心身ともに強く逞しいこと)」「良妻賢母(家庭にあっても、賢く教養のある女性であり、人間的な魅力を兼ね備えていること)」「温雅貞淑(穏やかで気

品があり、誘惑に負けず志が堅いこと)」の三綱領を建学の精神とする。私学教育にとって建学の精神は、学校経営の方針や運営、教育方針、教育内容や方法等の拠って立つべきものとして、最も重要なものである。本校は、この建学の精神によって、これまで営々と歩んできた。当然100周年以降も、この建学の精神は、守り続けなければならない。そのために、一つの方策として、平成29年(2017年)に、本校正面入り口の新穂登免先生胸像周囲のエントランス・アプローチを整備し、三綱領の碑を設置するとともに、短歌三首に因んだ梅・柳・竹を植栽し、建学の精神に思いを致すとともに、本校の歴史、文化、校風、関係する人々の思いを偲ぶ場とした。設置された説明板には、「この場に佇む者は、本校の建学の精神や教育の基本理念、ひいては創立者の教育への思いなどに触れ、改めて本校を知ることとなるのである。」とある。

新穂登免先生が本校の学校教育の柱とすれば、本校の寮教育(一般の生活)の柱は、新穂登免先生の孫に当たる櫻井登美子先生であろう。櫻井登美子先生(大正13年(1924年)～平成27年(2015年)享年91歳)は、第7代校長櫻井丸雄先生との結婚後、昭和28年(1953年)から御逝去なさるまで、舎監(後に、名誉舎監)として寮生はもちろんのこと、他の生徒たちや教職員にも深い愛情を注ぎ感化し、時にはユーモアを交えて日常生活の知恵や方法、社会人となるための訓練を施し、慈愛をもって見守っていらっしかったという。櫻井登美子先生は、本校の建学の精神の実践者であった。その偉業を永く顕彰し、延いては、生徒たちが日常生活の中から本校の建学の精神に触れ体得していくことを目的として、平成30年(2018年)にレリーフを作成し、白梅寮食堂の入り口に掲げ、さらにその一年後に記念の冊子を上梓した。

本校は、この二人の女性を象徴として、歴代の理事会及び評議員会、教職員、生徒、保護者、同窓会等が一丸となり、これまでの90有余年の歴史を築いてきたのである。

ただ、時代状況や人々の価値観、有り様等は、常に変化していく。したがって、今後とも、本校の建学の精神も、不易流行の考えの下、柔軟な姿勢で、その時代その時代に適合したもの、活きたものとしていく必要があることは、言うまでもない。

【 学 校 の 変 遷 】

《歴代理事長》

大正14年(1925) 玉名実践女学院
 昭和 2年(1927) 玉名実践女学校
 4年(1929) 玉名女子職業学校
 17年(1942) 熊本県玉名高等家政女学校
 22年(1947) ~30年(1955) 玉名女子中学校併設
 (中学校は、昭和30年4月から生徒募集停止)
 23年(1948) 玉名家政高等学校

昭和26年(1951) 学校法人玉名白梅学園設立
 29年(1954) ~37年(1962) 家庭専攻科併設
 30年(1955) ~37年(1962) 別科併設
 38年(1963) 玉名女子高等学校

《歴代校長》

①新穂義邦校長
 (S2~20.6)
 ②新穂登免校長
 (S20.7~27.3)

③寺本直喜校長
 (S27.4~28.3)
 ④新穂登免校長
 (S28.4~32.3)
 ⑤田中正行校長
 (S32.4~43.9)

⑥三浦強助校長
 (S43.11~59.5)

⑦櫻井丸雄校長
 (S59.6~H2.3)
 ⑧北里正剛校長
 (H2.4~13.3)

⑨小篠健一校長
 (H13.4~18.3)

⑩福岡勲校長
 (H18.4~27.3)

⑪森塚利徳校長
 (H27.4~31.3)

⑫鈴木田光孝校長
 (H31.4~)

【 学 科 ・ コ ー ス の 変 遷 】

①新穂登免理事長
 (S26.3~46.1)

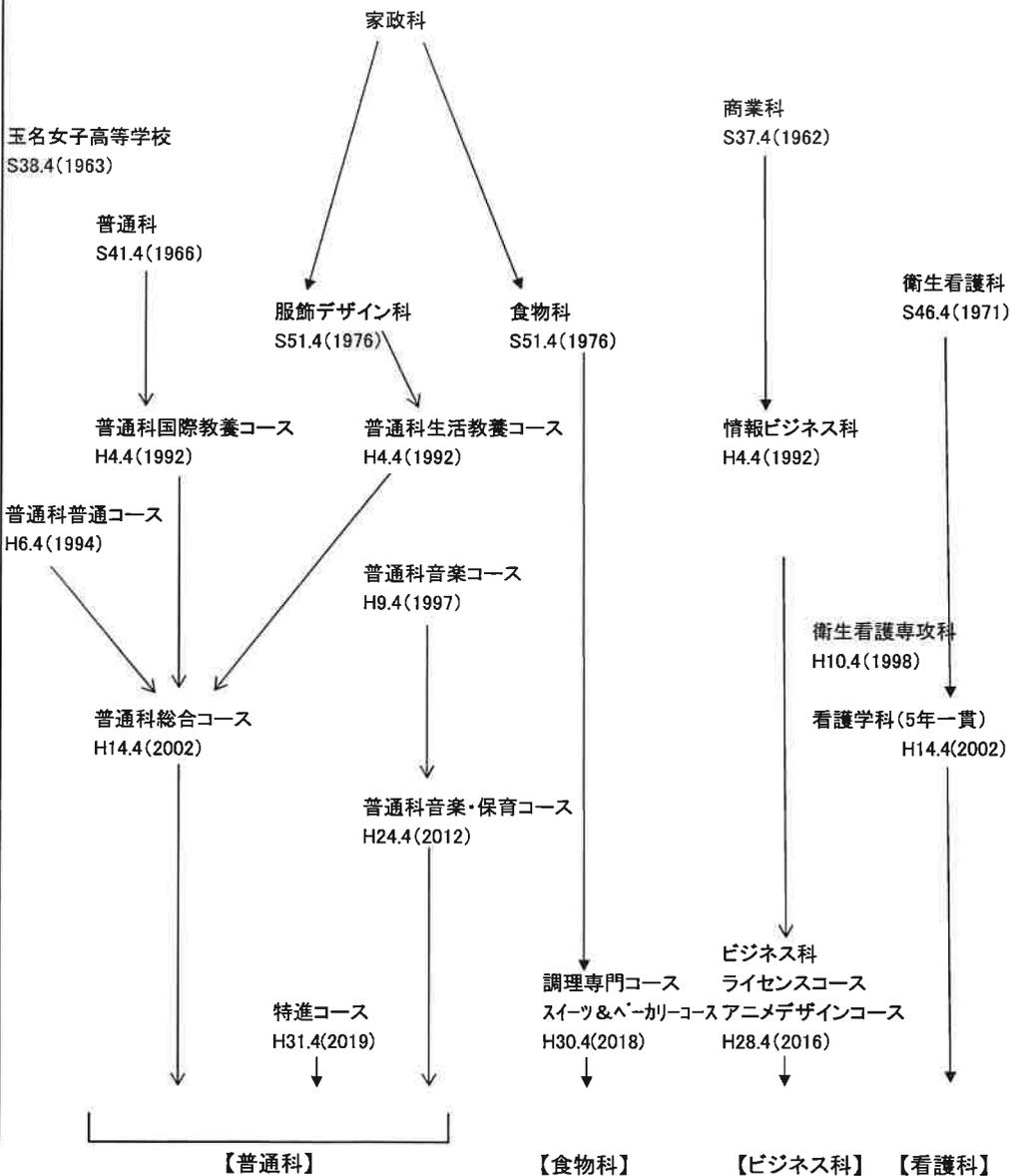
②三浦強助理事長
 (S46.2~59.5)

③櫻井丸雄理事長
 (S59.6~H6.2)

④北里正剛理事長
 (H6.3~18.3)

⑤小篠健一理事長
 (H18.4~31.3)

⑥森塚利徳理事長
 (H31.4~)



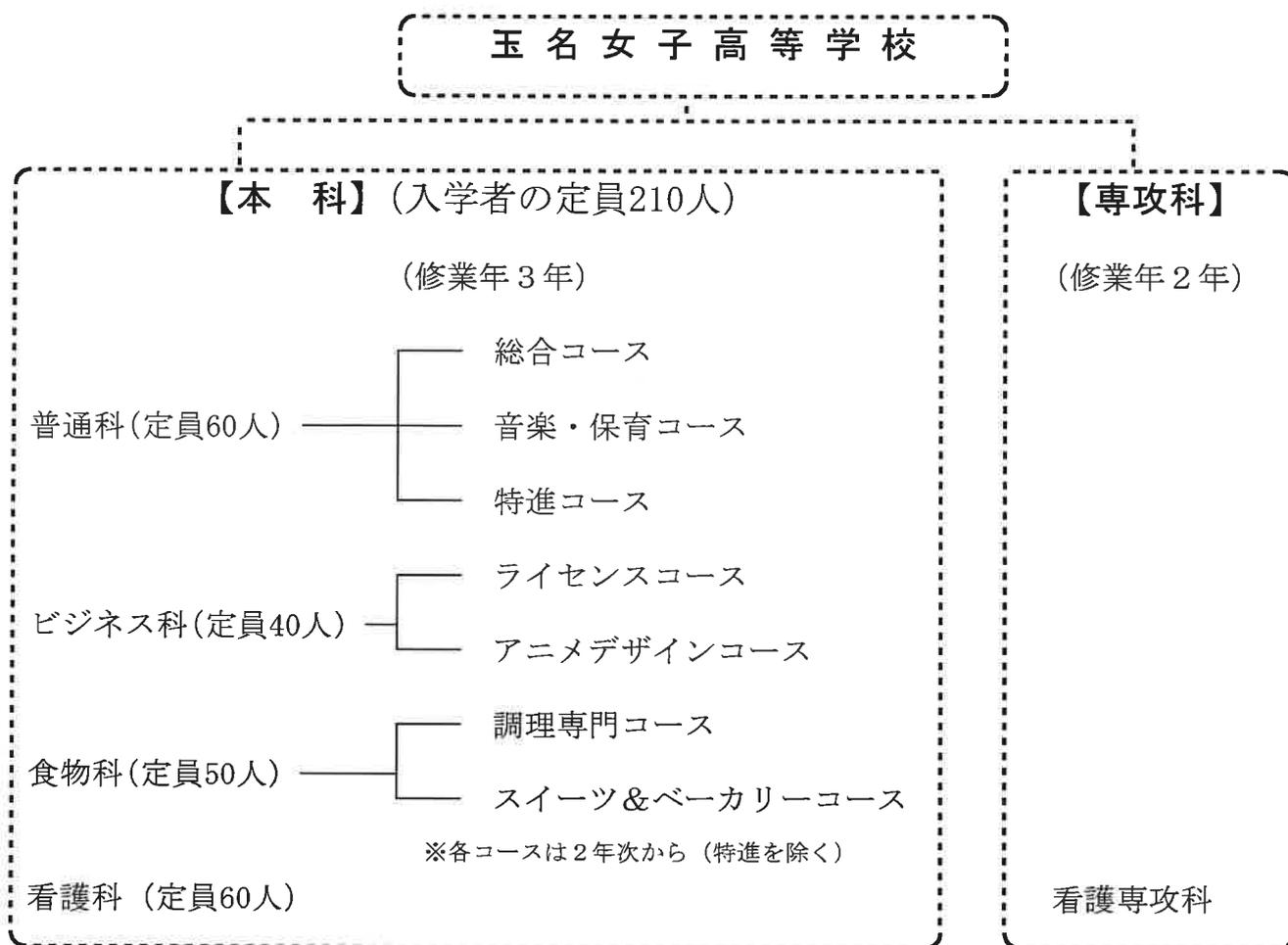
【普通科】

【食物科】

【ビジネス科】

【看護科】

(4) 設置する学科・コース等 (令和3年度現在)



平成28年度入学生は最低の128人となったが、その後は増加に転じ、この4、5年は約170人は確保するようになってきた。(直近5年間の平均は181人)ただ、平成30年度の入学者数219人を境にして、この数年間の減少傾向は注意すべきである。これについては、詳細な分析とその具体的な対応が迫られている。

一方、受験種別入学者数に表れているように、特技の数に比べて専願の数が徐々に増えている。これは、本校の日常の教育が中学生やその保護者、中学校の先生方、地域社会等に評価されてきているものとして受け取っている。このことは、本校の教職員の自信や意欲にも繋がることでもある。中学校関係者や保護者等から、「玉名女子高校は、きめ細かな指導がなされている」ということばを聞くことがある。このような見方には感謝するとともに、さらに気を引き締めているところでもある。

生徒数が減少していく中で、しかも、女子中学生だけが対象であるなど、大きな課題が横たわっている。しっかりとした詳しい分析 (P)、その分析に基づいた行動 (D)、その行動への具体的な評価 (C)、さらなる改善 (D)、いわゆるP→D→C→Aを念頭に置いて、現状では定員210人に対して実質180人を確保するために、入学時は190人の生徒を受け入れるための行動をする必要がある。(究極の目標値は210人+21人 (10%) の231人。このこと

については、(2)で述べる。また、現状では、入学した生徒の内、諸事情で平均10人前後の生徒が退学、転校等をしていくという実態がある。

【入学者数】

| | H20年度 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| (西暦)年度 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
| 入学者数 | 152 | 180 | 153 | 147 | 164 | 163 | 156 | 139 | 128 | 160 | 219 |
| 充足率(%) | 72.4 | 85.7 | 72.9 | 70.0 | 78.1 | 77.6 | 74.3 | 66.2 | 61.0 | 76.2 | 104.3 |

| | H31, R1 | H2 | R3 | H23~R2 | H28~R2 |
|--------|---------|------|------|-----------|----------|
| (西暦)年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 最近10年間の平均 | 最近5年間の平均 |
| 入学者数 | 179 | 177 | 170 | 165人 | 181人 |
| 充足率(%) | 85.2 | 84.3 | 81.0 | 78.8% | 86.2% |

(2012~2021年度) (2017~2021年度)

【受験種別入学者数】

| | H20年度 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
| 一般 | | | | 7 | 9 | 10 | 8 | 4 | 8 | 11 | 16 |
| 専願 | | | | 49 | 65 | 66 | 63 | 54 | 45 | 77 | 109 |
| 特技 | | | | 54 | 66 | 65 | 74 | 70 | 55 | 72 | 94 |
| 他 | | | | 37 | 24 | 22 | 11 | 11 | 20 | | |
| 合計 | | | | 147 | 164 | 163 | 156 | 139 | 128 | 160 | 219 |

| | H31, R1 | H2 | H3 | H23~R2 | H28~R2 |
|--------|---------|------|------|-----------|----------|
| (西暦)年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 最近10年間の平均 | 最近5年間の平均 |
| 一般 | 17 | 15 | 11 | 11人 | 14人 |
| 専願 | 80 | 99 | 93 | 75人 | 91人 |
| 特技 | 82 | 65 | 66 | 71人 | 76人 |
| 他 | | | | 18人 | 人 |
| 合計 | 179 | 177 | 170 | 165人 | 181人 |

(2012~2021年度) (2017~2021年度)

(5) 学校・学科・コース等の生徒数の状況

【 玉名女子高等学校 】

(令和2年5月1日現在)

| 学科 | コース | 入学定員数 | 収容定員数 | 現員数 | | | |
|--------|----------------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
| 本科<高校> | | | | | | | 0 |
| 普通科 | 特進 コース | 60 | 180 | 5 | 4 | | 9 |
| | 総合 コース | | | 57 | 31 | 31 | 119 |
| | 音楽・保育 コース | | | | 27 | 30 | 57 |
| ビジネス科 | ビジネス コース | 40 | 120 | 18 | 8 | 15 | 41 |
| | アニメデザインコース | | | | 15 | 11 | 26 |
| 食物科 | 調理 コース | 50 | 150 | 39 | 19 | 34 | 92 |
| | スイーツ・ベーカリー コース | | | | 10 | 17 | 27 |
| 看護科 | | 60 | 180 | 59 | 50 | 73 | 182 |
| 高校 計 | | 210 | 630 | 178 | 164 | 211 | 553 |
| 看護専攻科 | | 60 | 120 | 49 | 34 | | 83 |
| 総 計 | | 270 | 750 | 227 | 198 | 211 | 636 |

(6) 収容定員充足率

単位 % (令和2年5月1日現在)

| 学科 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 本科<高校> | | | | | |
| 普通科 | 60.5 | 74.4 | 99.4 | 102.7 | 91.1 |
| ビジネス科 | 45.8 | 59.1 | 60.0 | 55.8 | 60.8 |
| 食物科 | 68.0 | 80.0 | 75.3 | 79.3 | 72.6 |
| 看護科 | 85.5 | 97.2 | 99.4 | 101.1 | 85.5 |
| 高校 計 | 66.6 | 79.3 | 86.1 | 87.7 | 79.3 |
| 看護専攻科 | 100.0 | 88.3 | 75.8 | 69.1 | 96.6 |

(7) 役員(理事・監事)の概要 (R2. 5.1)

理事 (定数 10人) 現員 10人、 監事 (定数 2人) 現員 2人

| | 氏 名 | 就任年月日 | 常勤・非常勤の別 | 業務執行・非業務執行 | 主な現職 |
|------|-------|-----------|----------|------------|----------|
| 理事長 | 森塚 利徳 | 平成31年4月1日 | 非常勤 | 執行 | 理事長 |
| 副理事長 | 櫻井 孝一 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | ホテル相談役 |
| 理 事 | 小篠 健一 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | |
| 理 事 | 前田 利為 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | 医師 |
| 理 事 | 松尾 隆彦 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | |
| 理 事 | 渡邊 典子 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | 同窓会長 |
| 理 事 | 米村 友子 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | 大学講師 |
| 理 事 | 桑本 隆則 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | 非執行 | |
| 理 事 | 高峰 武 | 令和1年6月1日 | 非常勤 | 非執行 | 新聞社 |
| 理 事 | 鈴木田光孝 | 平成31年4月1日 | 常勤 | 執行 | 校長 |
| 監 事 | 村上 弘 | 平成30年4月1日 | 非常勤 | | 自動車販売店会長 |
| 監 事 | 那須 信明 | 令和1年6月1日 | 非常勤 | | |

※前田利為理事は令和2年12月21日付け退任。

- 責任免除 …… 有
 ○責任限定契約 …… 該当なし
 ○補償契約 …… 該当なし

(8) 評議員の概要

(定数 21人) 現員 21人

(令和2年5月1日現在)

| | 氏名 | 就任年月日 | 主な現職 |
|-----|-------|----------|---------------|
| 評議員 | 森塚 利徳 | 令和2年4月1日 | 理事長 |
| 評議員 | 櫻井 孝一 | 令和2年4月1日 | 副理事長 |
| 評議員 | 小篠 健一 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 前田 利為 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 松尾 隆彦 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 渡邊 典子 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 米村 友子 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 桑本 隆則 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 高峰 武 | 令和2年4月1日 | 理事 |
| 評議員 | 鈴木田光孝 | 令和2年4月1日 | 理事・校長 |
| 評議員 | 中村 美穂 | 令和2年4月1日 | 教頭 |
| 評議員 | 米田 真一 | 令和2年4月1日 | 教諭 |
| 評議員 | 伊原 弘志 | 令和2年4月1日 | 教頭 |
| 評議員 | 橘高 桃江 | 令和2年4月1日 | (元同窓会長) |
| 評議員 | 安成美恵子 | 令和2年4月1日 | 同窓会副会長 |
| 評議員 | 松村 峰子 | 令和2年4月1日 | 同窓会副会長 |
| 評議員 | 塘岡 弘幸 | 令和2年4月1日 | (元県職員) |
| 評議員 | 松尾 芳徳 | 令和2年4月1日 | |
| 評議員 | 西田 典正 | 令和2年4月1日 | 金融機関 玉名支店長 |
| 評議員 | 岩下 元行 | 令和2年4月1日 | (元中学校長) |
| 評議員 | 山本 恵子 | 令和2年4月1日 | 大学教授 |

(9) 教職員の概要

(令和2年5月1日現在)

| 区分 | 本科 | 看護専攻科 | 合計 |
|----------------|----|-------|-----|
| 校長 | 1 | (兼務) | 1 |
| 教頭 | 2 | (兼務) | 2 |
| 教諭 | 24 | 1 | 25 |
| 特任教諭 | 2 | | 2 |
| 養護教諭 | 2 | (兼務) | 2 |
| 常勤講師 | 9 | 5 | 14 |
| 人権同和教育担当者 | 1 | (兼務) | 1 |
| 非常勤講師 | 35 | 11 | 46 |
| 事務長 | 1 | (兼務) | 1 |
| 事務主査 | 1 | | 1 |
| 事務職員 | 6 | 1 | 7 |
| 用務員 | 1 | | 1 |
| 寮母 | 4 | | 4 |
| 寮事務補助員(非常勤) | 1 | | 1 |
| 調理員(非常勤) | 1 | | 1 |
| スクールドライバー(非常勤) | 8 | | 8 |
| 合計 | 99 | 18 | 117 |

※平均年齢 全体 52.6歳 教員 45.4歳 (※非常勤講師を除く)

2 事業の概要

(1) 生徒募集

ここでは、入学者について概括しておく。(2の(3)も参照されたい。)

まず、入学者数は、教職員一人一人の、そして、それぞれの持ち場での努力、広報における工夫(地域説明会の開催地や回数等の拡充、オープンスクールや学校での説明会の工夫、ホームページやパンフレットの刷新等)等により、それまで減少傾向にあり、平成28年度入学生は最低の128人となったが、その後は増加に転じ、この4、5年は約170人は確保するようになってきた。(直近5年間の平均は181人)ただ、平成30年度の入学者数219人を境にして、この数年間の減少傾向は注意すべきである。これについては、詳細な分析とその具体的な対応が迫られている。

一方、受験種別入学者数に表れているように、特技の数に比べて専願の数が徐々に増えている。これは、本校の日常の教育が中学生やその保護者、中学校の先生方、地域社会等に評価されてきているものとして受け取っている。このことは、本校の教職員の自信や意欲にも繋がることでもある。中学校関係者や保護者等から、「玉名女子高校は、きめ細かな指導がなされている」ということばを聞くことがある。このような見方には感謝するとともに、さらに気を引き締めているところでもある。

生徒数が減少していく中で、しかも、女子中学生だけが対象であるなど、大きな課題が横たわっている。しっかりとした詳しい分析(P)、その分析に基づいた行動(D)、その行動への具体的な評価(C)、さらなる改善(D)、いわゆるP→D→C→Aを念頭に置いて、現状では定員210人に対して実質180人を確保するために、入学時は190人の生徒を受け入れるための行動をする必要がある。(究極の目標値は210人+21人(10%)の231人。このことについては、(2)で述べる。また、現状では、入学した生徒の内、諸事情で平均10人前後の生徒が退学、転校等をしていくという実態がある。)

【入学者数】

| | H20年度 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| (西暦)年度 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
| 入学者数 | 152 | 180 | 153 | 147 | 164 | 163 | 156 | 139 | 128 | 160 | 219 |
| 充足率(%) | 72.4 | 85.7 | 72.9 | 70.0 | 78.1 | 77.6 | 74.3 | 66.2 | 61.0 | 76.2 | 104.3 |

| | H31, R1 | H2 | R3 | H23~R2 | H28~R2 |
|--------|---------|------|------|-----------|----------|
| (西暦)年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 最近10年間の平均 | 最近5年間の平均 |
| 入学者数 | 179 | 177 | 170 | 165人 | 181人 |
| 充足率(%) | 85.2 | 84.3 | 81.0 | 78.8% | 86.2% |

(2012~2021年度) (2017~2021年度)



【受験種別入学者数】

| | H20年度 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
| 一般 | | | | 7 | 9 | 10 | 8 | 4 | 8 | 11 | 16 |
| 専願 | | | | 49 | 65 | 66 | 63 | 54 | 45 | 77 | 109 |
| 特技 | | | | 54 | 66 | 65 | 74 | 70 | 55 | 72 | 94 |
| 他 | | | | 37 | 24 | 22 | 11 | 11 | 20 | | |
| 合計 | | | | 147 | 164 | 163 | 156 | 139 | 128 | 160 | 219 |

| | H31, R1 | H2 | H3 | | |
|--------|---------|------|------|-----------|----------|
| (西暦)年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 最近10年間の平均 | 最近5年間の平均 |
| 一般 | 17 | 15 | 11 | 11人 | 14人 |
| 専願 | 80 | 99 | 93 | 75人 | 91人 |
| 特技 | 82 | 65 | 66 | 71人 | 76人 |
| 他 | | | | 18人 | 人 |
| 合計 | 179 | 177 | 170 | 165人 | 181人 |

(2012～2021年度) (2017～2021年度)

(2) 教育活動、施設設備等

教育の質をあげるとともに、各学科・コースの魅力を増し、生徒の卒業後の進路を実現させる、つまりは生徒保護者の希望を満たすためには、いかにすべきか。生徒や保護者が「玉名女子高校に行ってよかった」と言えるためには、いかにすべきか。特に、多様な個性の下で、それぞれの特技や長所をもった生徒たちの能力や人間力を引き伸ばし、生徒たちが豊かな人生を生きるための基礎作りとするには、いかにすべきか。

この課題を考えるとときに、四つの視点が浮かぶ。

- ① 「国家百年の計」とも言われる教育に携わる者だからこそ、教職員は社会に生きていくためのより優れた人間力と、いかなる教育の現場にあっても真摯に的確に指導できる教育力の向上を図ること（人間力については、内閣府が「人間力戦略研究会報告書」〈2003年4月〉において、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」としている。また、教職員像については、熊本県教育委員会作成の平成15年4月5日付け「くまもとの教職員像」が、参考になる。）
- ② 教育環境、特に施設設備を安心・安全を基本として整備し充実させること
- ③ 教職員の生活を安定化させ、意欲と働きがいに満ちた職場とすること
- ④ 生徒数の確保のためにも、学科・コースの教育内容の充実、場合によっては改編も視野に入れること。また、広報活動の工夫改善も重要であること。

①について、多方面からの研修（自己研修を含めて）が最大の効力を発すると考える。私学の場合は、他に触れ合う機会が少ない。それは情報が得にくい、切磋琢磨する機会が少ないということにもつながる。教職員自身はそれらのことを自覚して、自らも研修に励む強い意志と努力が求められる。現在も、教科指導、生活指導等の教師力をアップさせるために、県内外の研修、校内研修を実施している。また、看護科においては、看護教員の免許を取得するために、九州看護福祉大学（熊本県玉名市富尾）と連携している。これにはPTAからの支援も受けている。

今後とも、研修の受講者がいかに研修の質を上げるか、そして、その成果をより多くの教職員や生徒たちに還元するかなども念頭に置きながら、常に工夫改善をし、より充実したものとなるように努める必要がある。そのような中で、働き方改革の上からも本校（職場、教室等）のICT化が必須の状況である。その点では、本校は遅れているとの認識がある。財務との関係で難しい面もあるが、本校の教育活動や教職員の働き方にとってのICT化はいかにあるべきかを考慮のうえ、早急に取り組む必要がある。

②について。この4、5年の間の施設設備の整備等については基本的に改修、改築等であって、新築や新たな増設等はほとんどないと言って過言ではない。

現在、本校の基幹となる施設設備は、多くが耐用年数等の過渡期に来ているという印象を持つ。例えば、北校舎は昭和41年（1966年）、南校舎は昭和48年（1973年）、中校舎は昭和49年（1974年）の建築物である。また、体育館は昭和36年（1961年）である。設備についても、エアコンや実習用のパソコン、蛍光灯なども、耐用年数を超えて使用しているなどの状況がある。そのために安全面や利便性、快適さや美観等に課題が生じている。4、5年前から、計画的にこの課題解決に当たっており、徐々に改修や改築等は進んできている。この現状を改善し終えるのは令和6年（2024年）として立案し、実行しているところである。今後の具体的な計画、スケジュール、実施等については、追って理事会等にも諮りたい。

③について。その必要性を認識し、これまでも改善を図ってきた。例えば、令和2年度においては、基本給の底上げを図るため、通例では年間の定期昇給が1号俸アップであるのを3号俸アップさせた。また、手当についても、主任・部長手当などのアップ、看護手当の創設、部活動手当等の増額及び支給範囲の拡大、扶養手当の支給範囲の拡大などである。

今後の課題の中心は、教職員の基本給（給与表も含めて）や手当（住宅手当の新設、他の手当の見直し等）の改善である。待遇改善を行うことは、当然のことながら教職員の生活を安定化させ、働く意欲を増すことになる。また、新規教職員の採用の上でも必須のことである。財務状況とのバランスが難しい課題であるが、本校が質の高い教育力を獲得する上では、非常に重要であると認識している。

④について。学科・コースの教育内容の充実では、1の（2）に示した図のとおり、この数年、ビジネス科、食物科、普通科において、新コースの設置を行い、生徒の多様な能力や興味関心に応えるとともに、魅力ある学び舎とするために力を注いできた。そのための施設改善や設備の投資も行ってきた。まだ、まだ工夫改善の余地は、十分にある。特に、特進コースの成果をいかに上げていくか、アニメデザインコースの学びに沿った進路の保障はどうするかが、大きな課題と言える。

また、生徒の募集における広報活動については、現状では、量よりも質の充実が課題であると考えている。現在、広報活動として、パンフレット、ホームページ、オープンスクール（昨年は、7月10月、11月）、中学校訪問や学校説明会、地域の施設を借りた入試説明会（熊本、菊池、山鹿、天草、八代、合志、島原、宇城、大牟田）、音楽会に伴った学校説明会などを実施している。これらの個々の広報活動を、一人一人の教職員が共有し、マンネリ化せず、いかに充実させるか。次年度から、合志、泗水、植木地区をターゲットとして、新たなスクールバスの運行を予定している。そのために、令和3年度購入の予算を計上した。（④については、2の（1）も参照されたい。）

(3) 国際交流

本校の国際交流は、二つの姉妹校との交流を中心に行われている。一つは、平成3年（1991年）から始まった米国アイオワ州クラリダ市にある公立クラリダ高校、もう一つは、平成8年（1996年）から始まった韓国慶尚南道昌原（チャンウオン）市にある私立馬山舞鶴女子高校との交流である。いずれも、生徒の交換留学制度があり、ほぼ毎年お互いの交換留学生を通して交流を深めている。しかしながら、この二年間、クラリダ高校とは、新型コロナウイルス発生、拡大のために、また、馬山舞鶴女子高校とは韓国との歴史認識問題等により、直接の交流はできていない。

クラリダ市はアメリカジャズ界で一世を風靡したグレン・ミラーの生誕地であり、毎年6月にはグレン・ミラー音楽祭が開催されている。本校吹奏楽部は隔年置きにはあるが、クラリダ高校を表敬訪問するとともに、この音楽祭にも参加してきたが、昨年は新型コロナウイルス禍のために参加できなかった。また、毎年の馬山舞鶴女子高校との交流では、職員の交流や入学式、卒業式の祝詞交換、年頭の挨拶も行われていた（現在でも、入学式、卒業式の祝詞交換、年頭の挨拶は行われている）。この二つの国際交流の課題としては、クラリダとの交流に尽力されてきた米国や日本の関係者の高齢化、グレン・ミラー音楽祭の今後の動向、また、韓国との歴史認識問題の解決等がある。その他の国際交流としては、これまでもAFSを活用しての交流がある。ほぼ毎年1人がAFSの留学生として、本校に10か月間滞在している。

現在、本校では、生徒たちに国際交流を意識づけるための一つの方策として、管理棟（中校舎）にある職員室、事務室、校長室、保健室、図書室等には、その部屋名を表す標識に、日本語、英語、韓国語の三か国語で表記している。また、今後の予定として、中庭に米国や韓国の国樹を植え、本校国際交流の歴史や意義等を記した説明板等の設置を考えている。

以下に、生徒交流の人数をあげる。

【本校 ⇒ クラリダ高校】

| | H3年度 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|---------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 |
| 人数 | 3 | 0 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 |
| | H14年度 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 |
| (西暦)年度 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 |
| 人数 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 |
| | H25年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31, R1 | R2 | R3 | | |
| (西暦)年度 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 合計 | |
| 人数 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | | 51 | |

【クラリダ高校 ⇒ 本校】

| | H3年度 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|---------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 |
| 人数 | 1 | 0 | 2 | 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | H14年度 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 |
| (西暦)年度 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 |
| 人数 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 0 | 3 | 1 | 3 |
| | H25年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31, R1 | R2 | R3 | | |
| (西暦)年度 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 合計 | |
| 人数 | 1 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | | 57 | |

【本校 ⇒ 馬山舞鶴女子高校】

| | H3年度 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|---------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 |
| 人数 | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | 5 | 6 | 7 |
| | H14年度 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 |
| (西暦)年度 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 |
| 人数 | 10 | 16 | 9 | 6 | 11 | 7 | 8 | 7 | 9 | 10 | 10 |
| | H25年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31, R1 | R2 | R3 | 合計 | |
| (西暦)年度 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | | |
| 人数 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 7 | 10 | 0 | | 188 | |

【馬山舞鶴女子高校 ⇒ 本校】

| | H3年度 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|---------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 |
| 人数 | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | 2 | 6 | 6 |
| | H14年度 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 |
| (西暦)年度 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 |
| 人数 | 7 | 11 | 20 | 10 | 8 | 10 | 8 | 8 | 9 | 8 | 10 |
| | H25年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31, R1 | R2 | R3 | 合計 | |
| (西暦)年度 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | | |
| 人数 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 0 | | 195 | |

(4) 地域（中学校、大学、地域等）との連携

本校の起源は、創始者新穂登免先生が現在地に玉名実践女学院を創立したことにある。この地は、本校令和2年度『学校経営概要』によると、

肥後藩の末家三万五千石の細川利永は、明治元年7月にその住居、屋敷を玉名郡弥富村、現玉名市岩崎に定めて高瀬藩と称した。翌2年6月細川藩主の請願による版籍奉還が許され、利永も同3年9月再び東京居住を命ぜられた。同11月に彼が高瀬を去るに臨んで旧家臣の住居、敷地を夫々の私有とし、藩邸用地は旧家臣一同の共有地とした。これが「高瀬共有地」と呼ばれ、存続することになったが、現在の玉名女子高等学校の南校舎および体育館の敷地がそうである。

という歴史がある。現在もこの「高瀬共有地」は「家中会」（高瀬藩旧家臣5家の集まり）の管理下にあり、本校は、長年、この土地を借用地としてきた。借用地の広さは、校地全体の32.93%に当たる。

【参考】

（本校校地22,420.07㎡〈約6,773.44坪〉

＝本校所有土地15,036.07㎡〈約4,542.6坪〉＋家中会借地7,384.0㎡〈約2,230.82坪〉

現在、本校校地の周囲は、ほぼ住宅であり、このことから、本校は地域を抜きにしては語ることはできない。（さらには、校地は、玉名市道で分けられていることにも課題がある。）

また、90数年の教育活動を考えてみても、新穂登免先生以来、荒尾・玉名、山鹿・菊池などの周辺地域の女子教育が柱であったことも、本校が地域を抜きにして語れない事情である。

このような地域との深い結びつきを背景に、本校は地域の住民、小・中学校、大学、行政等との結びつきを深くしている。

例えば、地域住民に対しては、体育祭や文化祭時の地域への招待、食物科の「ふれあい弁当」（当初は、「老人弁当」の名称。平成12年度から現在の名称に変更）は、平成5年度（1993年度）から始めたもので、現在では、地域の75歳以上の独居高齢者に対して、年に1回弁当を作り、届けるという交流。）、ダンス部（部員の生徒は30人余り）の夏祭りなどの地域行事への参加、高齢者施設や介護施設の慰問（年間30回を超える）、市民合唱団への練習会場の提供がある。小学校には読み聞かせ活動、中学校には、親善球技大会の開催（近隣の中学校のソフトボール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン部を集めての大会の主催者。年に1回。50数年の歴史がある。）などがある。吹奏楽部などは、小中学校でミニコンサートを開催し、好評を博している。大学とは、九州看護大学との間に看護教員の資格を取るための社会人のための講座開設があり、昨年度は3人の本校職員が受講した。九州看護大学には、感謝の念にたえない。

行政とは、本校がグレンミラー音楽祭、クラリンド高校との結びつきを深めていることを契機に、音楽の町玉名を標榜する玉名市がクラリンド市と友好関係を結んでいるなどがある。ただ、この音楽を通しての玉名市との関係は、残念ながら最近弱まっている。

最近では、ボランティア活動の一環として、熊本地震をきっかけに阿蘇郡西原村へのボランティア活動（仮設住宅壁面の装飾画作成、草花の植え付けや花壇の管理等）も行われている。

このように、本校はいろいろな形で地域との結びつきを深めているが、これも本校が現在の地にあれば、なおさらのことであろう。今後も、本校が教育機関として地域から、その存在を認められるように尽力する必要がある。

3 財務の概要

(1) 決算の概要

学校の財務状況を知るには、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の三つの財務諸表が重要となる。資金収支計算書からは借入金を含めた現金預金の出入りや施設設備関係の支出が、事業活動収支計算書からは一年間の現金を中心とした流れが(企業で言えば、損益計算書に相当)、貸借対照表からは学校全体の財務や財産の状況を知ることができる。これらの諸表を基にし、本校の財務について、いかに収入と支出を安定させて健全な財務状況を保つかについて概観する。

まず収入は、平成31年度(令和元年度)の事業活動収支計算書から見ると、事業活動収入計に対する学生生徒等納付金収入(授業料、校納金等)の割合は51.2%、国や県からの経常費等補助金の割合は47.5%である。大筋においてこの割合は変わらない。つまり、本校は、学生生徒等納付金が5割、補助金が5割弱の収入とみていい。学校の教育活動をより充実発展させるためには、この収入を増加させる必要がある。ただし、補助金の増額はあまり見込めない以上、基本的には、より多くの生徒数を確保するか、授業料や校納金、寮費等による収入を上げるかの二つしかない。しかしながら、授業料等の引き上げは、保護者の負担等を考慮すれば、簡単にすべきものではないし、できるものでもない。したがって、いかに多くの入学者数を確保するかが、収入の鍵となってくる。(近年の入学者の数については、上記の「(1) 生徒募集」を参照されたい。)

本校の入学者定員は210人であり、この定員は変えられない(と見るべきである)。そして、入学者が、定員の10%(本校では231人)を超えたら、補助金が最低10%削減される。これらのことから、231人(210人×1.1)が理想ではあるが、現状での現実的な入学者の目標数は190人(充足率90.5%)と考えている。その中でも看護科(定員60人)は、専攻科が設置されていることから、65人の入学生を目標数とする。(65人というのは、病院実習の可能な人数や、看護学科5年間の生徒の異動等を考慮しての人数)。

次に支出である。同様に、平成31年度(令和元年度)の事業活動収支計算書から見ると、事業活動支出に対する人件費の割合は64.4%、教育用経費の割合は20.8%、管理用経費の割合は14.4%である。この経費の割合も大筋においては変わらない。節約は必須であるが、学校の教育活動という面からして、大幅には節約は期待できない。

また、本校には4学科7コースと看護専攻科があるために、必然教職員数が多くなる(教職員の数については、「1」の(8)を参照されたい)。特に、実技を伴うコースには、非常勤講師も多く必要である。この数年の中で、ビジネス科をライセンスコースとアニメデザインコースに(平成28年度)、食物科を調理専門コースとスイーツ&ベーカリーコースに分けたり(平成30年)、普通科に特進コースを設置したために(令和31年)、非常勤講師を含めた教職員の数は増加している。そのために、人件費も徐々に増加している。経常収入(平成27年度〈2015年〉までは、帰属収入)に対する人件費の比率は、以下の通りである。

| | H19年度 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| (西暦)年度 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
| 割合(%) | 55.8 | 57.9 | 61.0 | 56.4 | 57.1 | 52.6 | 53.9 | 51.2 | 54.3 | 59.6 | 60.4 |

| | H30年度 | H31, R1 | R2 |
|--------|-------|---------|------|
| (西暦)年度 | 2018 | 2019 | 2020 |
| 割合(%) | 63.4 | 62.6 | 55.5 |

令和3年度〈2021年度〉には普通科特進コースの枠組みが完成するので、その後は、あまり非常勤講師を含めた教職員の増加は必要ないと見ている。

特に人件費については、支出の最大のものであり、定期昇給等も考えれば、基本的に上昇するものと考えられる。5年後、10年後などのシミュレーションの下で十分な検討を行い、常に状況を把握しておく必要がある。

繰り返すが、将来に亘って健全な財務状況とするとともに、本校の将来の教育をより充実させるためには、上述生徒数を確保することが一番重要な要素である。

(2) 経年比較

① 貸借対照表関係

ア 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:円)

| | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 固定資産 | 1,377,712,707 | 1,375,741,665 | 1,571,836,971 | 1,590,723,105 | 1,544,798,294 |
| 流動資産 | 392,472,528 | 371,176,768 | 206,648,358 | 174,368,586 | 268,798,000 |
| 資産の部合計 | 1,770,185,235 | 1,746,918,433 | 1,778,485,329 | 1,765,091,691 | 1,813,596,294 |
| 固定負債 | 119,610,000 | 104,515,000 | 90,237,500 | 76,357,500 | 62,477,500 |
| 流動負債 | 61,248,647 | 38,586,337 | 34,820,621 | 43,827,461 | 47,324,226 |
| 負債の部合計 | 180,858,647 | 143,101,337 | 125,058,121 | 120,184,961 | 109,801,726 |
| 基本金 | 2,209,092,653 | 2,281,939,732 | 2,546,716,791 | 2,620,409,047 | 2,640,482,262 |
| 繰越収支差額 | -619,766,065 | -678,122,636 | -893,289,583 | -975,502,317 | -936,687,694 |
| 純資産の部合計 | 1,589,326,588 | 1,603,817,096 | 1,653,427,208 | 1,644,906,730 | 1,703,794,568 |
| 負債及び純資産の部合計 | 1,770,185,235 | 1,746,918,433 | 1,778,485,329 | 1,765,091,691 | 1,813,596,294 |

② 資金収支計算書関係

ア 資金収支計算書の状況と経年比較

| 収入の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 学生生徒等納付金収入 | 230,184,075 | 228,541,858 | 251,629,050 | 257,852,900 | 323,381,900 |
| 手数料収入 | 3,549,770 | 4,232,030 | 3,254,560 | 3,382,280 | 3,872,280 |
| 寄付金収入 | 865,050 | 875,000 | 625,000 | 365,063 | 510,250 |
| 補助金収入 | 264,028,698 | 251,052,808 | 291,869,136 | 239,565,593 | 248,962,290 |
| 資産売却収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19,251 |
| 付随事業・収益事業収入 | -2,885,557 | -63,662 | -488,361 | -1,355,422 | 3,710,303 |
| 受取利息・配当金収入 | 93,264 | 105,308 | 81,205 | 56,790 | 46,731 |
| 雑収入 | 29,929,463 | 10,523,255 | 4,043,710 | 17,540,474 | 16,952,682 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前受金収入 | 9,965,000 | 10,685,000 | 8,135,000 | 9,270,000 | 11,150,000 |
| その他の収入 | 120,395,165 | 45,199,715 | 25,859,658 | 29,553,288 | 38,246,624 |
| 資金収入調整勘定 | -45,941,728 | -24,157,520 | -27,824,976 | -32,466,435 | -31,579,877 |
| 前年度繰越支払資金 | 280,187,773 | 350,330,712 | 348,253,899 | 178,290,718 | 139,052,360 |
| 収入の部合計 | 890,370,973 | 877,324,504 | 905,437,881 | 702,055,249 | 754,324,794 |

| 支出の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 人件費 支出 | 295,165,497 | 290,289,495 | 314,150,737 | 329,571,477 | 339,807,849 |
| 経費 支出 | 99,184,623 | 104,586,099 | 109,564,017 | 106,885,029 | 88,560,759 |
| (管)経費 支出 | 33,352,507 | 33,406,360 | 21,080,994 | 24,319,616 | 43,702,044 |
| 借入金等利息 支出 | 3,223,467 | 2,720,112 | 2,325,623 | 2,053,074 | 1,119,025 |
| 借入金等返済 支出 | 23,320,000 | 23,320,000 | 13,880,000 | 13,880,000 | 13,880,000 |
| 施設関係 支出 | 44,549,080 | 35,533,864 | 229,027,800 | 48,175,608 | 0 |
| 設備関係 支出 | 25,088,237 | 13,473,741 | 21,750,871 | 8,387,912 | 7,454,354 |
| 資産運用 支出 | 3,349 | 2,504 | 2,504 | 25,418,504 | 12,011,236 |
| その他の支出 | 41,173,608 | 36,674,245 | 25,997,489 | 23,361,639 | 43,696,221 |
| | | | | | |
| 資金支出調整勘定 | -25,020,107 | -10,935,815 | -10,632,872 | -19,049,970 | -19,797,113 |
| 翌年度繰越支払資金 | 350,330,712 | 348,253,899 | 178,290,718 | 139,052,360 | 223,890,419 |
| 支出の部 合計 | 890,370,973 | 877,324,504 | 905,437,881 | 702,055,249 | 754,324,794 |

③事業活動収支計算書関係

ア 事業活動収支計算書の状況と経年比較

| 収入の部 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 事業活動収入の部 | | | | | |
| 学生生徒等納付金収入 | 230,184,075 | 228,541,858 | 251,629,050 | 257,852,900 | 323,381,900 |
| 手数料収入 | 3,549,770 | 4,232,030 | 3,254,560 | 3,382,280 | 3,872,280 |
| 寄付金収入 | 1,637,076 | 2,280,960 | 1,310,388 | 365,063 | 873,932 |
| 経常費等補助金収入 | 247,451,698 | 247,485,808 | 248,261,136 | 239,565,593 | 248,962,290 |
| 付随事業収入 | -17,398,765 | -12,924,650 | -13,176,658 | -15,994,822 | -11,065,954 |
| 雑収入 | 29,929,463 | 10,523,255 | 4,043,710 | 17,540,474 | 16,952,682 |
| 教育活動収入計 | 495,353,317 | 480,139,261 | 495,322,186 | 502,711,488 | 582,977,130 |
| 事業活動支出の部 | | | | | |
| 人件費 | 294,497,097 | 289,074,495 | 313,753,237 | 329,571,477 | 339,807,849 |
| 経費 | 99,184,623 | 104,586,099 | 109,564,017 | 106,885,029 | 88,560,759 |
| (管)経費 | 67,544,990 | 73,136,717 | 63,967,111 | 73,547,287 | 95,959,789 |
| 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動収支計 | 461,226,710 | 466,797,311 | 487,284,365 | 510,003,793 | 524,328,397 |
| 教育活動収支計差額 | 34,126,607 | 13,341,950 | 8,037,821 | -7,292,305 | 58,648,733 |

| | | | | | | |
|---------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 教育活動 | 事業活動収入の部 | | | | | |
| | 受取利息・配当金 | 93,264 | 105,308 | 81,205 | 56,790 | 49,272 |
| | その他の教育活動外収入 | 203,376 | 196,362 | 208,709 | 185,111 | 58,157 |
| | 教育活動外収入計 | 296,640 | 301,670 | 289,914 | 241,901 | 107,429 |
| 動外収支 | 事業活動支出の部 | | | | | |
| | 借入金等利息 | 3,223,467 | 2,720,112 | 2,325,623 | 2,053,074 | 1,119,025 |
| | その他の教育活動外 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 教育活動外支出計 | 3,223,467 | 2,720,112 | 2,325,623 | 2,053,074 | 1,119,025 |
| | 教育活動外収支差額 | -2,926,827 | -2,418,442 | -2,035,709 | -1,811,173 | -1,011,596 |
| 経常収支差額 | | | | | | |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | | | | | |
| | 資産売却差額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19,251 |
| | その他の特別収入 | 16,577,000 | 3,567,000 | 43,608,000 | 583,000 | 1,231,450 |
| | 特別収入計 | 16,577,000 | 3,567,000 | 43,608,000 | 583,000 | 1,250,701 |
| | 事業活動支出の部 | | | | | |
| | 資産処分差額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他の特別支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 特別支出計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 特別収支差額 | 16,577,000 | 3,567,000 | 43,608,000 | 583,000 | 1,250,701 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | 47,776,780 | 14,490,508 | 49,610,112 | -8,520,478 | 58,887,838 |
| 基本金組入額合計 | | -92,778,943 | -72,847,079 | -264,777,059 | -73,692,256 | -20,073,215 |
| 当年度収支差額 | | -45,002,163 | -58,356,571 | -215,166,947 | -82,212,734 | 38,814,623 |
| 前年度繰越収支差額 | | -574,763,902 | -619,766,065 | -678,122,636 | -893,289,583 | -975,502,317 |
| 基本金取崩額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | | -619,766,065 | -678,122,636 | -893,289,583 | -975,502,317 | -936,687,694 |

(参考)

| | | | | | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 事業活動収入計 | 512,226,957 | 484,007,931 | 539,220,100 | 503,536,389 | 584,335,260 |
| 事業活動支出計 | 464,450,177 | 469,517,423 | 489,609,988 | 512,056,867 | 525,447,422 |

(3) その他

① 有価証券の状況

該当なし

② 借入金の状況

(単位:円)

| 借入先 | 期末残高 | 返済期限 |
|-------------|------------|-------------|
| 私立学校共済振興事業団 | 24,990,000 | 令和 6年 3月15日 |
| 肥後銀行 | 49,950,000 | 令和12年 3月20日 |
| 計 | 74,940,000 | |

③ 学校債の状況

該当なし

④ 寄付金の状況

寄付金については、平成28年・29年度と86～87万円ほどあったが、令和元年度は約36万円ほど、令和2年度は51万円ほどとやや落ち込んでいる。今後は、令和4年度に本校創立百周年を迎えるため、それに向けて寄付活動を積極的に進めていきたいと考えている。

⑤ 補助金の状況

経常費等補助金については、例年2億4700万円ほどのあったが、令和元年度に過疎地域高校特別補助金が対象から外れ約900万円ほど減額となった。結果として、事業活動収支計算書において収支差額が、約マイナス850万円ほどなってしまった。令和2年度は、教職員人数割りによる加算、加えて新型コロナウイルス感染防止対策費として300万円の国庫補助があり、2億4890万円となった。

⑥ 収益事業の状況

平成27年(2015)6月に再生可能エネルギー・太陽光発電による売電事業を開始した。それ以後、年間約100万円前後の売電収入があった。令和2年度は、雷による被害を被りその修繕に数カ月を要したため、約83万円となり約17万円ほどの減となった。

⑦ 関連当事者等との取引の状況

該当なし

⑧ 学校法人間財務取引の状況

該当なし

4 今後の事業を推進するに当たって

令和元年度後半から令和2年度にかけて、コロナ禍の影響で、かなりの部分で従来の教育活動が中止又は制限された。令和3年度も（特に、前半）、この状況は徐々に回復はしていくものの、まだ大きくは変わらないものと推測している。今まで経験のない状況と限られた環境の中で、生徒たちや教職員は心身ともによく堪え、共に配慮をし合い、安心安全を図ってきた。生徒たちは夢の実現に向かって最大限の努力をし、教職員は必死でそれを支援してきた。

このように、本校の生徒たちや教職員は、いかなる状況にあっても創始者新穂登免先生以来の建学の精神を基に、本校の教育を着実に実践してきた。今後とも、この姿勢と実践を下に、さらに充実発展させていく必要がある。その際、生徒たちには、自らの個性と才能を活かし、社会に活躍し得る「白梅乙女」となる努力を続けてもらいたい。また、教職員には、本校及び日本の未来を担う若者の教育に携わっていることへの矜持と使命感、責任感を抱き、全員が協働し一丸となって事に当たることを期待したい。

次に、令和2年度の決算（案）であるが、新型コロナウイルス禍ではない年度と大きく異なっている項目がある。当然、新型コロナウイルス関係の支出（感染防止のための備品購入費等、休校中の学習の指示や連絡等のための郵送費等）は増加した。一方、教職員や生徒の活動が制限されたため、出張費や生徒活動費等の支出は、大きく減少している。これにより、緊急を要した事業（北校舎屋上の漏水防止工事や天井補修工事）等が可能になったのも事実である。

しかし、このような決算は異例であるとの認識が必要であり、財務については、常に、これまでの予算、決算を考慮しながら進めるべきであると考えている。

なお、今後数年間の施設設備の整備計画等（案）については、後に貼付する。

最後に、長期の課題をいくつか挙げる。

- ① 学校のありようとして、学習面と部活面とをいかに両立させるか。または、どちらかに重心を置いた学校づくりとするか。特に、百周年後の本校の学校像をどのようなものとするか。
- ② 現在の住宅地の中にある校地は、教育環境として様々な隘路（例えば、校舎・実習等の建設、交通、スクールバスの運行、音を中心とした地域住民への配慮、・・・）が生じている。このまま現在地を校地とするならば、校地を拡大して、よりよい教育環境とするためにも、まずは周辺の土地の買い取りが必要となろう。
他の場所に移転、新築するならば、まずはその費用捻出が、大きな課題となろう。
（目算で、20～30億円は必要か。本校の純資産は、令和2年度で、約16億4千5百万円。）
- ③ 子どもの数の減少の中で、女子校を貫くか。男女共学を導入するか。
- ④ このまま玉名女子高等学校として独自路線を貫くか。他の高校と合併するか。または、大学付属の高校となるか。

令和6年（2024年）には、本校創立百周年を迎えることとなる。いずれにしても、創立百周年は本校の歴史にとって大きな節目である。今後の本校のあり方等について考えることは必須の項目である。一方で、百周年に関わる行事や催事等については、遺漏のないように準備を進めていきたい。PTA、同窓会等を始めとして、地域、県や国などを含めた関係諸氏には、これまで同様のご協力、ご支援をお願いしたい。

令和2年度 事業計画 (給与改善・施設・設備関係)

(単位:円)

| | 項目 | 実施月 | 金額 | 元帳細目 |
|---|------------------------------|-----|--------------|------|
| | 教職員の待遇改善他 | | | |
| ① | 教職員給与改定 (定期昇給+2号給) 4/1~実施 | 4月 | 27,300,000 円 | 人件費 |
| | 施設充実関係 | | | |
| ② | 南校舎玄関口改修工事 | 7月~ | 16,000,000 円 | 建物支出 |
| | その他 | | | |
| ③ | 公用車購入 5/28納車 ¥2,200,000- | 5月 | 6,000,000 | 車両支出 |
| | スクールバス購入 | 未定 | | |
| | 合計 | | 49,300,000 円 | |



令和2年度 事業報告

(単位:円)

| | 項目 | 実施月 | 金額 | 元帳細目 |
|---|-------------------------------------|-------|--------------|---------------|
| | 教職員の待遇改善他 | | (概算額) | |
| ① | 教職員給与改定 (定期昇給+2号給) ※ 4/1~実施 | 4月 | 15,000,000 円 | 人件費 |
| | 施設充実関係 | | | |
| ② | 南校舎玄関口改修工事 (約1,600万円) 変更 ↓ | (7月~) | 22,000,000 円 | 建物支出→ 修繕費へ |
| | 中校舎屋上防水並びに3階教室天井 改修工事 (約2,200万円) | 11月~ | | |
| | その他 | | | |
| ③ | 公用車購入 5/28納車 ¥2,200,000- | 5月 | 2,200,000 | 車両支出 |
| | スクールバス購入 → 見送り | | | |
| | 合計 | | 39,200,000 円 | |